

教育を通じて東北に活気を！「東北エデュケーションプロジェクト」

背景・目的

- ・2008年文部科学省が「留学生30万人計画」を策定、2020年までに留学生30万人を目指し、昨年5月時点で298,980人となり順調に数を増やしてきた中、東北の現状については、全体の2%程度に留まり、未だ外国人留学生を十分に呼び込めていない状況。
- ・東北地域の生活環境の優しさとその土地特有の「学び」の価値を提供する仕組みを整備することで首都圏に集中する留学生需要を地方へ流し込む。地方大学留学の魅力を増進するモデルを構築し、教育を目的とする交流人口拡大を進める。(対象市場：インドネシア、マレーシア、オーストラリア等)

主な実施取組の内容

【取組① 留学前訪日教育旅行の造成】

被災地3県を対象とした学びの場を設定し、参加者にとって将来的な東北への留学につながる機会となるような商品を造成

- ・県別に岩手県4プログラム、宮城県4プログラム、福島県3プログラム、計11プログラムを造成。
- ・【例】岩手県：北限のゆずプログラム

陸前高田には、200年以上前から『ゆず』が生息していたが、震災前地元では、地域の産物としての認識を持っておらず、ましてや「北限」であるという認識も薄く。しかし、震災を契機に地域外からの多くの人的交流の中で、このゆずのもつポテンシャルに特産物としての認識が高まる。いま「北限のゆず」は、地元の復興の象徴として、ブランド化を目指す。その姿から“気づき”地元の価値をどう活かすかを学ぶ。
(所要約2時間～3時間30分)

■プログラム例：北限のゆず



【取組② 留学前訪日教育旅行の販売】

プログラム造成によりまとめたセールシート内容を英語版に翻訳し、プロモーション用にパンフレット化。東南・東アジアの現地旅行代理店に説明と配布を実施。

■英語版パンフレット



【取組③ プロモーションの実施】

現地教育機関へのセールス及び東京開催のJ-conference 2018に参加しプロモーション活動を展開。

- ・ベトナム：フエ外語大学、フエ師範大学
- ・バングラディッシュ：ダッカ大学
- ・ブータン：ブータン高校
- ・台湾：台湾国立南投高級中学
- ・中国：上海地域大学日本国際フォーラム、全国大学日本語教育改革検討会、浙江省・安徽省・江西省日本語教学研究会、江蘇省大学日本語研究会、中国日本語教学研究会2018年度学術大会への参加
- ・東京開催のJ-conference 2018への参加

■海外の教育機関訪問



■J-conference参加



成果目標

- 送客数 800人
- 延べ宿泊者数 1,600人泊

実績

- 送客数 397人
- 延べ宿泊者数 4,014人泊
- インドネシア40人泊・マレーシア120人泊
- オーストラリア252人泊・中国1,112人泊

得られた成果

- 「学び」「滞在」「交流」を組み合わせ希望によりアレンジ出来る商品を展開し受入れをすることができた。
- 震災後だからこそ学べるプログラムの「新たな価値」を地元大学とともに提供できる仕組みを構築(北限のゆず×岩手大学)⇒ 好事例として他受入地域に拡大

今後に向けた課題・活動の見通し

- 圧倒的に東北の地方大学の情報不足。継続的に「大学のレベル」「卒業後の就職状況」「サポート体制」「奨学金制度」といった情報を届ける活動を実施。
- 各大学の海外セールスの機会を共有し、東北での「学ぶ魅力」「生活する魅力」に関わる情報を伝達し、東北への留学意向を高める。
- 北限のゆずを手本に「実施組織」「運営組織」「地方大学」が連携し活動できる組織づくりを東北全域に広げられるように活動を行っていく。